

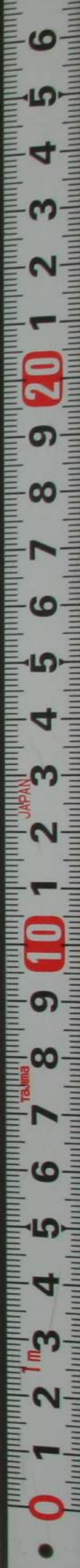


関ヶ原軍記

初編十九

二十

特
遠13
2207
10



門八遠13
番2207
巻10

池清

関ヶ原軍記初篇巻之拾九

目録

一本多忠勝佐和山に授任之事
 并忠勝石田三成が謀略に陥入事
 一上校系待逆心風吹の事
 并景勝兼継主従略傳の事

翻 譯 書
 倭 軍 書
 唐 軍 書
 隨 筆 物
 國々名所
 近世戦争書類
 右之外數品は座山に記されたる程奉願也
 繪 本
 書 本
 滑稽書物
 此亭馬琴之作
 其外諸先生作
 車書
 歌討
 諸家騷動
 御捌物

書物遺存所

東京牛込細工所
誠光堂・池田屋清吉

池清



園ヶ原軍記初篇卷之拾九

本多忠勝佐和山に檢仗の事
并忠勝石田三成が孫畧り
臨入事

去河より平加賀宰相利長を
人質取りて和順お調ひ
石田三成が孫畧りも
く

故らとりて去元來上秋永れ老
長直江山城守總領と合併して
その根りとの藩斗と定めおきて
中納言系務（逆公）成りて
その用色志ありたり石田三成
よりゆき多々年々其覚ありんば
居城の善しんを丈夫に成し
堀とありて本城より二三

の老るが癖を多々
門に石垣等ありて堅固に
よりありて之糧を業りその外
燈塔薪所中とありて
く入るは徳川の浪人を救ふ
抱へて其具を袋おとしたり
逆藩の用色志ありて
その事世よりかくし

肉厨公ニクドウキョウの

徳大トクダイ名ナあ

徳寺トクジ等トウあ

物モノ在ゾウ百集ヒャクシュウあ

作アツセ出デさんサンらラいイ石田イシダ浪ナミ泊トキかカ捕ツ事ジ

尚ナウ事ジ隠カクレ居イのノ此ココあアれレをヲあアんンの

故コをヲ合カれレ日ニチ学ガク思シ成セイ名ナあアれレ也ヤ

たタのノ形カタくクしシてテ結ケツ句ク送ソウ乞キ名ナの

事ジをヲ送ソウ乞キ名ナの

次ジ送ソウ乞キ名ナの

味ミ乃ノ増マシ回クワ長チヤウ登トウ

人ニヒ口コとトさサらラくク中ナカにニけケらラるル

今イマをヲ今イマをヲ世セのノ境キョウをヲいイはハすス

今イマをヲ今イマをヲ年ネン来ライ在ゾウ大ダイ坂ハカをヲ

初仕りしゆゆを居陣定めて
大破し及びしりすりすりす
の役目あり石垣築城の原
所るごと仕るやうでしゆゆ
世に此風流ぬるまの南尋
治部少輔中隠居の身るれば
るふとて合戦の支度仕る
るまのやとやらる

内府公方へ石れ行さぬ世に此
流云もまへしつゝの懸がし
まの討登りしに抱くばまの
捨仗とせしきりまへし
本多中務少輔と石くいそ
まのんぢの佐和山に居り
城守清の指子する道んる
や吾やその虚室とらるる

さぐり来々〜とてきりきれ
りり志らに増回長束の友人
を急ぎ依和や〜肉面〜
ふらつて三威をの謀斗とめぐ
ら〜本多とさうらんとする
に右衛門とつ〜酒を好む
〜と能く知りけるあ〜
鏡山は蒲生俊中と逢ひし出

道さ〜桑店と忌として
様〜さ〜此の〜
志らるふ中務太輔とこの
ろ鉄石の〜と〜
酒と酒と志らる〜大い
〜沈酔〜前後を忘〜
〜西〜ぬり〜
む〜三遠支那のあ〜

辛骨して合戦中む時形く又
古太閤秀吉公 小條家城征せし
るしちの 小田原へおのむま其
後新解軍此折るにわあの名
護屋に在陣して一日を安堵
せぬ今この合戦意を一世一代の
ちどめありとえ来下地を上戸
ならん頼りよのまてころあも

初れ香葉の中を眠るあが
る本中まで来りしころあが
石田が志居清左近次三成百具
していづくむく桑てんくま
入り又く酒をんをさうどめけ
るも時を成りしころあが
どのの宮東一乃長尾あり純
是バ上使一の合意様是くは

依る城の修復石垣の葺板
堀の深州おのき所は倉庫の
とありありいぶくは同律中へ
しそておつき城中へいつく
修くも城雪積と見分まはま
れとあらうし大務をさすこあら
も身は南城の修復取前
うりておどくおまするれども

布多の太い干泥餅十ヶ
ちく古新の系列も形く唯
着跡をさすらん地して修和
山の城中央より内郭と探り
うらぶらぶらふらふらも形く取
るの形泥餅あり上き人形
のどろくちうんが他人も皆く
餅倒を察らよりおれりぞ

あり形くその翌日の朝
山脈の珠味集りて後日
酒多んありとぬく見分
ゆづもちんきんんんん
此藏を思てもこれぞの未
らくいあやま事なり
て送人の松子も足ぬ
皆世への風夢なりと
音森る

ともし一このあつ酒多ん
してその場所よりして
何の殺使の急きも
増えるきこりなり
それより申替太輝と大坂
帰り 内府公の御前
出く中心より石田之
若て送心多るなり
城の雪

志ん亭麗故の祈し中上使
也仍く弛走り為之まる堀
有りおき藤新 茅如子波
のそ外り新堀新橋等もそ
く元より物害のそ双の徳和山
よてん石田の中送せられり
照ちたしうふ見届け来り人
と中しりるふよりく徳人毛

本多右衛門見分せしうそ
別条をしと杉のひしも在
のり中あり流石も本多中務
太輝志誠を双して又鬼神
のそ紀人もあめんくも先
の安堵きり終れ右衛門好物の
酒よのほれ那のそ紀社会
せいのそらり器止ふりるり

内府公姫路を咄りしめし
さうし〜石名坂坂の夏たり
中務左衛門が大酒を元後あり
でいぢびやう〜言此毒薬の好物
あり去り〜又敵軍此解破
の〜急ぎ〜忠勝酒をのんぐ
出る時を〜千一夜又此〜
〜兎角人よら〜の

さうし〜石名坂坂の夏たり
中務左衛門が大酒を元後あり
でいぢびやう〜言此毒薬の好物
あり去り〜又敵軍此解破
の〜急ぎ〜忠勝酒をのんぐ
出る時を〜千一夜又此〜
〜兎角人よら〜の
さうし〜石名坂坂の夏たり
中務左衛門が大酒を元後あり
でいぢびやう〜言此毒薬の好物
あり去り〜又敵軍此解破
の〜急ぎ〜忠勝酒をのんぐ
出る時を〜千一夜又此〜
〜兎角人よら〜の

終れ若この中務を辨き
所當家三臣のその一人
て武略通達の人也もちろん
この時ちがひ酒よそ見あり
ころ更き一交も争しとや

上校 兼務 運心 凡 吹のり
兼 兼勝 兼徳 兼俊 略 傳のり

信年 慶長 八年 正月 卯の戌
一 於 年 始の 嘉 義 行
天下 益 平安 之 依 當 春
上 校 中 納 兼 務 早 々 上 洛 五
今 一 所 沙 始 あり くれ
大 納 言 利 家 々 遊 去 後 嫡 子 寧
相 利 出 去 在 西 の 一 人 也
と 一 月 一 日 一 日 一 日 一 日

内府公は相法^{さうぼう}にばさればさしお^あ
て無きの糸いそぎの上洛ある
所しそのり車之結りさし
た糸務を病^{びやう}をあらねを快^{くわい}
次^{つぎ}へ履^かがて上洛仕^しる
との区^{くわ}をさしせん^{せん}延^{えん}行^{ぎやう}
しけらとあら^らし^し近^{きん}西^{せい}より
追^おひ^ひく^く追^おひ^ひん^んし^しら^らら^らら^ら板

糸務より送^おん^んり^りら^らら^らら^らは^は是^し
あ^あく^くい^いその^{その}あ^あく^くき^きら^らの^のう^うび^び部^ぶ
城^{じやう}と^とえ^えあ^ある^るその^{その}善^{ぜん}清^{せい}言^{ごん}中^{ちゆう}
し^して^てその^{その}う^うく^く徳^{とく}派^{はい}人^{にん}を^を大^{だい}勝^{しやう}
あ^あら^らう^うく^く七^{しち}ヶ^が所^{じよ}の^の要^{やう}宮^{みやう}大^{だい}
丈^{ぢやう}丈^{ぢやう}より^{より}あ^あら^らう^うく^く言^{ごん}士^しを^をと^とこ^こあ^あら^らう^うく^く
廣^{くわう}大^{だい}あ^あら^らう^うく^く油^{あぶら}引^ひあ^あら^らう^うく^くさ^さら^ら
り^り中^{ちゆう}あ^あら^らう^うく^くこれ^{これ}を^を実^{じつ}せ^せり

あんむをきでり 隆初大なる
形心子ゆいありあり
柝上松中洲云系務古
彈正大弼孫信の甥あり
その建初を相續せり 在
武常ささりて古志此
大あり先祖を孫念松め廊
系政の後胤して梶原平三

系時の嫡流あり 孫ら小系務
の書父輝虎入道孫信を弓矢
戦えてい古今獨あり大将あり
日本よてい大ねと呼れ松
民部大輔憲政より 策腹藏戦
後らさしり 以来もつあり
寺度此武名流あり加賀能
也 敏中 依波あり びふ本

山城後主^{あち}とく^で又ヶ^あ山城^{やましろ}
く^お多^お勢^う乃^の常^{じょう}將^{じょう}あり^り行^{ぎょう}年^{ねん}四^し
十^{じゅう}又^{また}女^{にょ}三^{さん}城^{じょう}元^{げん}政^{せい}さ^さら^ら志^しら^らる^る
泉^{いづみ}智^ちお^お續^{つづ}の^の汝^{にょ}舟^{ふね}支^し人^{にん}の^の卒^{すつ}
そ^の心^{こころ}阿^あり^り因^{いん}多^た人^{にん}を^を禰^ね佐^さの^の甥^{おひ}
よ^して^て毒^{どく}平^{へい}治^ぢ宗^{そう}孫^{そん}と^とり^りあ^ある^るれ
今^{いま}此^{こゝ}上^{かみ}杉^{すぎ}中^{ちゆう}納^{なつ}言^{げん}あり^り又^{また}一^{ひと}人^{にん}
小^こ糸^{いと}友^{とも}宗^{そう}と^と又^{また}氏^{うぢ}康^{やま}の^の末^{すえ}子^こと^と

して^{して}三^{さん}席^{せき}宗^{そう}虎^こと^とり^りの^の孫^{そん}に
徳^{とく}信^{しん}の^の元^{げん}後^ごと^と泉^{いづみ}智^ちと^とあ^あ
そ^の心^{こころ}阿^あり^りが^が多^た孫^{そん}と^とり^りあ^ある^る本^{ほん}
城^{じょう}よ^よ入^いる^る
春日山
今此山の^のち^ち城^{じょう}あり^り
その^{その}心^{こころ}阿^あり^りの^の徳^{とく}信^{しん}の^の孫^{そん}に
聲^{こゑ}あ^あり^り泉^{いづみ}長^{ちやう}と^とり^りあ^ある^る車^{くるま}に
山^{やま}城^{じょう}あり^りの^の力^{ちから}と^とり^りあ^ある^る宗^{そう}孫^{そん}に
その^{その}心^{こころ}阿^あり^りの^の力^{ちから}と^とり^りあ^ある^る本^{ほん}

より一三席 系帯と追ひ
立給ふ系帯と徳信の遺領
此お續しつらふよりく系帯
此徳士徳年ともこれより
まさても直江山城をまき
ぬく武威のりともさうり
より給ふより系帯と太閤の時
よりよりて城後徳信の支那

を願し七拾万石の大者と
ぬるありさうりさうり山城
すも智勇兼備の人故を岡
在せ此時する田三成より矢
の指南しつらふのさびさ
送る乃お徳人よりより
送津利運ともさうり主人
系帯と小陸及七ヶ岳の管領

とあるつゝその所をこれらまで
此系務の領領令津若松百金方
石込殿まで——この物束まで
あらばざる調略を以てして
蒲生氏々々毒殺——その領
を發がせ令津を關所の地と
して主人系務を以てして
させ百金方石の領主と改まる

うめぐし主人系務のつ
まゝり送んをくまぐてさせ
天下とて——關東上方同時
増純して本懐込を以て
——と調略——これらまで
——と景——うまひ令石田
三城と合群——番指系子
新博と名を以てこれらまで

関ヶ原合戦の根元形（七）
池清

関ヶ原合戦初篇卷の十九終
池清

池清

関ヶ原軍記初篇卷之武松

目録

- 一 在江山城守香指原ノ新城（一）
- 一 并浪人車舟羽父子山ノ道及の夏（二）
- 一 藤田能登守練状（三）
- 一 会津と立退事（四）

并ナリ之ノ秋アキのノ送送り保保河河をを頼頼之之のノ事事

池清

園園ヶヶ原原軍軍記記初初編編卷卷之之武武松松

直直江江山山城城香香指指原原之之新新城城城城

築築之之事事

并并浪浪人人車車舟舟舟舟父父子子山山上上乃乃及及之之事事

此此乃乃はは直直江江山山城城をを治治すす人人

系系勝勝之之事事南南城城をを治治すす内内也也乃乃はは其其のの事事也也乃乃はは其其のの事事也也

あゝんんふらうく番指原
今の予新築城よりして中
今津の予新築城よりして中
登しとまらるるの忍所し子夜
みまわらうるに系指をえ来
律義ある大将も急いやく
ゆの志らるるん我もこの
ところの地形恐るる地志る
ざる地ありさのわのくど

うましく公つんとうらぶらむして
の或目みちらるるりそ中され
らるる山城もさるるるる
三成とお後しそこのむゆ中
いざあら事やんを速に又
りらるる入る所は判形城
まらまら少し毛苦し
まら勿論公也もお海よりと

中よりおろく桑橋も志る
くち子押ありいそ死山城
洗法仕りてとて番指り
新坂をみる今此會津城
これありそりとも皆あ
形して四角此虎口なる
を舟本坪二三乃丸惣曲橋天
寺夫念その外炭をみる橋

の善清をそりめけるに百武松
百石の百姓をそりめける
花も京中此法士おそり
分限も意して善清の割合
城お勤む勿論徳信も来福分
して金銀法山あれば百姓
二人も来き中議十六文宛と
下りそ凡そこのうび集り

ところろの人是一万余人を起し
手取人の身若く大急しのみ
さしなく、吾輩の先列も形く
善清をいそだりり、室や古を
智徳の恵江山城守が縄をり
よして、あ辰の割合を隠信
以来ヶ根の急し、よるん、さる
ものどもるん、さるん、水の

流るるが、さるん、さるん、山城
ち、兼、終るま、人、系、務、し、節、め
く、俄、り、下、知、し、合、津、七、口、此
勢、の、害、と、り、多、く、り、り、を、俵、川、と
よ、の、舟、橋、此、撤、く、日、出、の、時、を
切、流、は、用、急、る、り、ま、る、の、山、の
つ、り、り、り、り、新、岡、此、構、く、く
道、此、冥、身、性、来、此、自、由、を、均、り

志らるれども堅固なりその邦
法城は修補をくまなく
とすりと取り入るる所福壽此
城より石田壺之物同く隼人
富田新文お城こゝあり白川の
志らるる宛竟然英士と稱し
て百日伐りの妻手もちとて
三千餘人楯籠らるれは偏一

このとらるる
内府公法自所御進敷あり
一この是怪ありさそま
他是は堀川の城千の酒田大炊
舟と大おとて浪人舟舟
同く山と道及ところあり
あり又白石の城千の其稻佐
さるるび小米沃の城さるる

ありて殿上松家
此送心給きるに押指しお是
よりそむくこの山に及ん
俗名武所丸集つとて隠きるに
ゆのよて日本武中と武者修
けし徳西を武名武輝り
首修書と之交せし徳の
ゆのありきるるのさび

系勝武百石をゆり浪
人がらとて組下多し
まゝ車舟波同く大将徳の
父子とのふし徳の國の産也
しつ園東武老修けし是
又首修書と之交せりおるを
そ修養といふは首三指三級
月墳と一ヶ所築きて伏龍武

幸ら幸ありらるる徳由
その名を知りまかりこれ
二百石にて石味色より純る
瘧病をどと好く人を車
波と書く後用はんを立所
千枚書きらるるのあり
純りとりて一生涯文盲り
く父子との小武骨のまかり

されば金津平均日後さび
浪人して武列角田川へ
来り小屋を撤く行か
困窮り及び風干せり父
子との小自教してお果あり
く色をくりそ供養小母を
理ある御く身せりゆある
度

云書く曰く一將好曲を
むす年終り一好賢良を
むす年終り同く好くを
むげあやらの終れ
石田治部内補を人好曲
あ日本書中大山平
まきく下志のり
それ終り石田三好

人ありあり終りて
郡のどく向端又仕育
よよりく豊長中おど
へも志麻もある終り
あつたれどもその身終
奪り強く志ぶしあ
終り滅せり志うんども
終り志といひ智謀常畧

の后あつく三放と後ト
合せ法お決く〜ひ程
もる神妙なりよんく
潤暑おそれ刻符をありせ
あらがた〜変り〜松
系勝を律義一遍の大おあ
まを古形の上〜よ放く
生死変りあり〜さ決〜

〜とおの〜決定〜
て膏とさ〜む〜れ備〜
大おき人の〜あ〜は信て
あり他人の事と〜
いひ〜支音〜世〜
決發〜他人の強〜
身此樂〜みと〜の
実手人お〜いひつ〜

里手一人の賢良あはれを
凡人義とちりて父祖を
孝あり百年の風を草花
靡くぐごとく

及田能忠忠傳狀次跡く
白雲小舎津を立返す
并上松邊孫の流を頼りのす

安小上松中綱言景勝の巻は
及田能忠忠の長長よて智勇
及田の士大將あり保く業務
も常くわん頃也能ら平一実
初に忠に忠継とて序相格は
て相勅めりあが山城を多々時
朱澤拾五万石代願一大利あり
及田を又万石よてその録を

ちがひまゝに権勢もこゝちあり
ゆるり及田能電寺塔白の根
子と見えよしてん中よ思ひ
りらに今このせり新地を
よそと見れば物言ひを
こゝれ新集乃さうさう
多くくめし抱へる事これ
まゝにさう送んとおんは是

これ倭人を君とすのう
て教代の旧家滅せん
ふらさかひりさおのひん
バ威時主人集集子集集を
ふらさかの文よ曰く

當時天下静徳のときあり
知主中お度に行乃らみ
ありて送意誠企てありや

太閤内他界の弓もなしく折云
嗣く宵身孫也を毛款と
稱する人々 徳川どの
ありて一は 御方の既く
之を支州の願主たる時之
常く他人に仕負ありん
居常るゝ此等と云ふ事
然るに今この世に去る年

をといひ官位も二位の
内大臣孫に松三ヶ西の大
願主ありて之を南村と
天下に後見として徳大志
も重んじし事々々志々々
申すお討ちまじ叔父さ
石田が隠謀を道理に宵く
うちの徳大志を御座り

さしひらけその新産重
ありは所直江山城を我城
多此善治場千あゆく
その中と咲らん急ぎ馳来り
系孫の初おくやけり
孫田能也さる中君長此礼致
そむくうそ追強く討果
まべしといふ志るに系孫の

貞信等実此人あればこそ
まろく大子千割し能登さ
あるんの姓ありや日れ致
孫云せんときらにそ孫状連
滞しは方よりそ飛ちやさ
あゆ急速懐しそ立返り中染
が道理ありそそ控置れり
能れば系孫の人おましくして

健美は大好あり勿論いせん
赤智とありしひし時度回
礼謝ありと笑つし却てけ
せり會津の強勅おびし
まゆく執後の國はる後極在
つ督秀政が願介しおぬく
仲依むし初るふ一擧紙紙

これいし松原の旧願あり
方より肉と取く却る
又會津の松子と信くま
香指系く城ととりて
七日のまらと修補し
法城に人数と数る
送んてありし
れちしし櫛の歯はひくが

是を見たりと
 ち作事易書を
 作身元同傳して
 咸しりけり
 池清

軍ヶ系軍紀初篇巻の二十終
 池清

大岡 政談 天一坊一代記 前右 四十	大岡 政談 村井實録 前右 五十	大岡 政談 遠見録 二十	大岡 政談 義士夜討實録 誠忠 廿六	大岡 政談 義士銘々傳 誠忠 百二十	大岡 政談 繪本難波戰記 津崎延房編 三五
近世 新説 上野戦争實録 廿五	兩國 復讐 女武勇傳 四十	開明 小説 高橋阿傳實録 前田先生編 五十	前田先生編 復讐深山櫻 大尾 四十六	誠忠 柳亭種彦編 義士銘々畫傳 編	

一 古本類何品より江不用...
 一 宣讀申請...
 一 貸本...
 誠光堂 謹

東京牛込區細工町十六番地
 誠光堂 池田屋清吉

